
ぼくは舞子

武智舞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼくは舞子

【Nコード】

N87450

【作者名】

武智舞

【あらすじ】

今も舞うことができるだろう。

懐かしき日々は、ぼくの糧に。

(前書き)

ぼくシリーズ第二弾

振るう。振るう。剣を振るう。

時に軽やかで、時に重々しい。

木を削り、両刃に銀紙ぎんがみを貼り付け、柄を漆うるしで塗った、祭りにふさわしき派手やかな剣けん。

しかし、辺りは闇を着込んで、ぼくたちには街灯一本が照明装置。

よく見れば剣だって、練習用でみすばらしい。

けれど、だからこそ、聞こえてくるのは太鼓たいこの律動りつどうと田舎じじいの舟歌ふなうただけ。

澄んだ空気も胸を満たす要素の一つで、舞台道具だ。

さらにぼくは知っている。

膝ひざを振るわす前に、剣先を見つめる。

矢の羽に似た模様が、赤いテープで描かれた刀身。

肩幅に足を開き、樽たるを踏みしめ、太股からお尻に力を入れて、膝をささやかに曲げるのだ。

そして上下に動かせば、ささやかな回転を上半身が受け持つ。

今だけは、私服こそが衣装。

舞の前に、所詮、鶴つるや花模様は小道具。

ぼくたちが描く剣筋だけが、物語。

二度目の練習がはじまった。

剣は背中に、手はかざす。

今夜の月も美しい。

打ち鳴らす太鼓が合図だ。

剣を逆手に、横へ腕を交差する。

二回繰り返せば、ついに剣先が披露され、ぼくを中心に回る回る。

やがて、斜めに向かって空を穿うがてば、後方を穿つ。その際、手を用いて、汚れを落とす。

いくたび経てば、剣先をすくうように袈裟けさ斬りもどき。腰は深く折り曲げ、戻す。

やはり二回繰り返せば、指が剣を縦に回す。

そして腕を横に振れば、後方を穿つ剣がもう片方の手に渡ってる。

舞が語るは、感謝と魔よけ。

舟歌もまたそうである。

しかし、ぼくにはどこ吹く風で、ぼくは舞に感謝する。それはみんなだって同じこと。

素敵な舞をありがとう。

未来のぼくは感謝する。

素敵な思い出をありがとう。

今、部屋の片隅には、みすばらしい剣が一本、立て掛けてある。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8745o/>

ぼくは舞子

2010年11月23日05時07分発行